



1 はじめに

本校は、令和4年度末をもって統廃合をしました。

令和2年度末の学校アンケート結果から児童の自己肯定感の低さが課題としてあがり、令和3年度は、児童の自己肯定感向上に取り組みました。その結果、令和3年度末の学校アンケート結果は、「自分に良いところがある」肯定的評価100%を達成し、児童の自己肯定感が高まっていることがわかりました。統廃合に向け不安をもつ児童が多い中、自己肯定感が土台となる自己効力感育成の最適期であると考え、令和4年度は、児童の自己効力感の育成に取り組みました。

2 取組

(1) 教職員研修

児童の自己効力感を向上させ

ていくには、教職員が自己効力感について知り、それを意識した対応、仕掛けを行う必要があります。そこで、教職員研修を数回実施し、教職員の意識を高めました。教職員自身も「気持ち温かくなった」との感想がいくつも上がりました。その気持ちで児童へ反映されていくのだと思います。

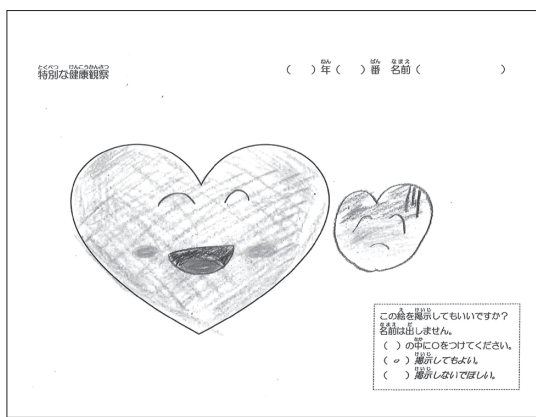
(2) さわやか週間

さわやか週間前に保健指導を実施し、意識してほしい「めあて」を根拠と一緒に伝えます。自己効力感育成のために、1学期は「早寝」「チャレンジする気持ち」、2学期前半は「チャレンジする気持ち」「姿勢」、後半は「リフレミネング」「ありがとうの力」、3学期は「笑顔」について保健指導を行いました。

(3) 特別な健康観察

心と体の状態を見つめる時間

を確保し、自己管理能力の育成を促す目的で、月に1回、児童に自分の心身の状態を絵で表現してもらいました。朝の健康観察だけでは言い表せない心身の状態や悩み事を描いてくれ、教育相談ツールとしても活用することができました。



3 成果と反省

年度初めと年度終わりの児童へのアンケート結果を比較することで、児童の変容を可視化しました。自己効力感に関する項目の合計を自己効力感の指標と捉え比較すると、良好群が3名増加し、要支援群が3名減少し

ました。結果に劇的な変化はありませんでしたが、児童の日々様子からも自己効力感はずっと向上していると確認できました。

4 おわりに

児童が新しい環境に果敢に挑戦することができるように、その心の土台づくりに教職員一丸となって取り組んだ一年でした。令和5年度から児童が新しい環境で楽しく笑顔で活躍することができていることを切に願っています。

(養護教諭 河野和美)

